

令和元年度全国防災・危機管理トップセミナー（町村長）

防災課

1 トップセミナー（町村長）の概要

我が国は、その自然条件から地震、水害などの災害が発生しやすい特性を有しているため、こうした災害がどこでも起きる可能性があります。一旦、災害が起きると、市町村（市には特別区を含む。以下同じ。）には、短期間の内に膨大な業務に対応・処理することが求められることから、市町村長は、リーダーシップを十分発揮し、的確な災害危機対応を行う必要があります。

このため、町村長の災害危機管理対応力の向上につながるよう、全国の町村長を対象とした「全国防災・危機管理トップセミナー」を毎年開催しています。

2 トップセミナー（町村長）の概要

令和元年6月12日の市区長向けトップセミナーに続き、7月3日（水）15時00分から全国町村会館においてセミナーを開催しました。会場には、全国から約130名の町村長に御参加いただきました。



会場の様子

【次第】

- 開会あいさつ
内閣府特命担当大臣（防災）
総務大臣（代理：消防庁長官）
- 平成30年北海道胆振東部地震からの教訓
厚真町長 宮坂 尚市朗 氏
- 地域を知り、防災を考える
－最近の豪雨災害事例から学ぶこと－
静岡大学防災総合センター
教授 牛山 素行 氏
- 町村の災害対応力の強化に向けて
消防庁国民保護・防災部長
小宮 大一郎

（1）開会あいさつ

総務大臣（代理：消防庁長官）

開会にあたって石田総務大臣からの挨拶を黒田消防庁長官が代読しました。全国どこでも災害が発生する可能性があるため、いざという時の備えを充実するとともに、出水期を迎えていることを踏まえ、改めて防災体制を確認する必要があると述べました。

また、①オールジャパンの災害協力体制の強化、②地域防災力の充実強化、③大規模テロ等への対応力の強化を要請しました。

その上で、「国家の究極の使命は、国民の生命と財産を守り抜くことである」との強い信念の下、引き続き国民の命を守るための消防・防災体制の充実・強化に努めていく旨を述べました。



石田総務大臣の挨拶を代読する黒田消防庁長官

(2) 平成30年北海道胆振東部地震からの教訓 厚真町長 宮坂 尚市朗 氏

続いて、北海道厚真町の宮坂町長から、平成30年北海道胆振東部地震での経験を中心に御講演いただきました。

宮坂町長は、最大震度7を記録し、甚大な被害をもたらした平成30年北海道胆振東部地震の被害状況の報告ほか、応急対応の状況や災害の教訓として受援体制の確立、受援訓練の実施などの重要性について述べられました。



講演を行う宮坂町長

(3) 地域を知り、防災を考える —最近の豪雨災害事例から学ぶこと— 静岡大学防災総合センター 教授 牛山 素行 氏

続いて、静岡大学防災総合センターの牛山教授から「地域を知り、防災を考える—最近の豪雨災害事例から学ぶこと—」とのテーマで町村長による危機管理対応について御講演いただきました。

牛山教授は、平成30年7月豪雨などの近年の豪雨災害を振り返り、被害状況の分析やそれに基づく対応策のほか、地域の特性を把握することや、市町村防災担当職員の支援等の取組の重要性について述べられました。



講演を行う牛山教授

(4) 市町村の災害対応力の強化に向けて 消防庁国民保護・防災部長 小宮 大一郎

最後に、国民保護・防災部長の小宮から、町村の災害対応力の強化に向けた対応に係る説明を行い、セミナーを閉会しました。

問合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課
TEL: 03-5253-7525